

精神保健福祉士

精神障害者の社会復帰などを
援助するソーシャルワーカー

資格登録者数

98,956人

(令和4年10月末現在)

今、求められている 人材とは



社会福祉学科 教授
三城 大介

精神保健福祉領域における課題は、心に変調をきたした方への治療や支援にとどまらず、予防や健康の維持増進まで求められています。

そのため、精神保健福祉対象領域は医療機関や福祉事業所のみならず、生活全般に拡大され、企業内でのメンタルヘルスの維持も対象とされています。そして、その一端を担うことが精神保健福祉士に求められています。

入学後は、精神保健福祉領域に限定せず、幅広く心理学や社会学、地域と臨床など隣接する学問領域や関連する領域を俯瞰的に学ぶ姿勢を意識してください。

社会という臨床の場に立つ皆さんとだからこその学びを深めていただきたいと願っています。

精神保健福祉士の魅力

精神保健福祉士が対象とするメンタルヘルスの課題は、自殺やひきこもり、発達障害、ヤングケアラー、セルフネグレクト（支援を求めない者）など、対象や課題が多様化・複雑化しています。それらの課題によって生活に困難をきたした方々に対し、多職種・多機関と連携・協働しながら課題の解決を図るところに、精神保健福祉士の専門性があります。

また、支援者自身の成長とともに、生活のしづらさを抱える方々に寄り添い、人生をより良くしていくためにかかわっていくところに、その魅力があると言えます。

精神保健福祉士の活躍の場

- 医療機関**：精神科病院、精神科診療所など
(医療相談室などで主治医や看護師、臨床心理士などとの連携・調整)
- 地域の施設**：障害福祉サービス事業所など
(日常生活訓練・就労支援など)
- 司法施設**：保護観察所など
(社会復帰調整官・保護観察官)
- 教育機関**：スクールソーシャルワーカーなど
(学校や家庭、児童相談所、行政機関などとの連携・調整)
- 企業**：従業員のメンタルヘルス支援部署など
(相談や予防などのサポート)

精神障害にも対応した地域包括ケアシステム

厚生労働省の統計情報によると、精神疾患を有する患者の数は、約420万人と近年増加傾向にあり（H29患者調査）、私たちにとって身近な疾患となっています。

こうした中、平成29年2月には「これからの精神保健医療福祉のあり方に関する検討会」報告書において、精神障害の有無や程度にかかわらず、誰もが地域の一員として安心して自分らしい暮らしをすることができるよう、医療、障害福祉・介護、住まい、社会参加（就労）、地域の助け合い、教育が包括的に確保された「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」の構築を目指すことが新たな理念として明確になり、精神保健福祉士も地域づくりの一端を担う人材として期待されています。

国家試験受験資格取得の要件

大学で精神保健福祉士の国家試験受験資格を取得するためには、指定科目を単位修得（履修）して、卒業することが要件となります。

また、国家試験は、最短で在籍中の卒業年度に卒業見込で受験することができますが、受験年度に指定科目の単位修得および卒業要件を満たすことが、合格が認められる条件です。

※入学前に指定施設で1年以上の相談援助の実務経験がある方は、実習免除の申請が可能です（詳細は、『募集要項』参照）。

「福祉マインド」～本学が精神保健福祉士をめざす学生に求める資質

- ① 精神障害者の権利を擁護する代弁者として、
- ② 精神障害者と地域との間を取り持つ調整者として、
- ③ 精神障害者の生活環境に働きかける伴走者として、

相手を受容し、思いやり、困っている状況を改善しようと願う心＝「福祉マインド」を持つことが大切です。そのために、在籍中は、「相手の考える幸福とは何か」、「どのような精神保健福祉士になりたいのか」を考え続け、自分が感じたことを「言葉」と「文字」に置き換えながら、相手に通じるために努力し、工夫することを求めます。

学びを通して、どのような力を身につけてほしいか

演習・実習指導では、将来精神保健福祉士として様々なフィールドにおいて、クライアントとその家族に寄り添いながら支援に携わり、専門職として自身も成長し続けるための基礎となる、「いかにより良く学ぶか」という「学びの所作」を身に付けていただきます。

また、演習・実習指導は、臨床現場の関係者ならびに実習指導者から、より深く充実した学びを得るための準備段階に位置付けられます。そのため、個々人それぞれが、主体的・積極的に「学びの実践」に取り組まれることを希望いたします。



社会福祉学科 講師
小野 芳秀

演習・実習指導・実習

① 精神保健福祉演習・精神保健福祉実習指導 (履修方法 **SR**・仙台会場のみ)

専門的価値を基盤にした「かかわり」や、具体的事例を通じて理論や概念を実践に適用する意義を学びます。

② 精神保健福祉実習 (受講定員 40 名程度)

福祉施設・医療機関それぞれの実践場面での「かかわり」を通して、知識・技術・価値を実践的に理解します。

各年次の中心となる学習

4 年次 | 演習・実習指導スクーリング、実習Ⅱ(医療)、国家試験対策

3 年次 | 演習・実習指導スクーリング、実習Ⅰ(福祉)

2 年次 | 演習スクーリング、実習選考試験

1 年次 | 共通基礎科目・指定科目の単位修得

※実習受講を希望する方は、インターネット配信による「精神保健福祉士実習ガイダンス」を受講し、ガイダンスの内容にご納得いただいた上で、出願書類をご提出いただく必要があります。また、「精神保健福祉実習Ⅰ」受講前年度に実習選考試験を実施します。そのため、希望者全員が実習を受講できるわけではありません。

本学独自の国家試験対策講義



受験勉強は、孤独になりがち。本学精神保健福祉士養成課程では、オンラインによる同時双方向＋動画配信での対策講義で、学生・教職員一丸となって合格を目指しています。

学費の目安(卒業までの総費用)

● 1 年次入学

実習受講者：91万円、実習免除者：77万9千円
卒業までの最短年数 実習受講者・免除者とも：4年

● 3 年次編入学

実習受講者：64万5千円、実習免除者：41万4千円
卒業までの最短年数 実習受講者：3年、実習免除者：2年

※詳細は、『募集要項』参照。